諸事存寄之通急度可致裁許事。

一、耕作精を出し候十村并小百姓には、褒美をとらせ、徒者は籠舍或は追出し入替無遠慮可申付。但、殺害人者可相立御耳事。

一、諸給人より不依何事百姓に直に申付間敷候。又百姓より給人に相斷間敷事。

一、御收納方之儀は、一切郡奉行にかまわせ申間敷候。郡縮并公事出入者、如跡々郡奉行取次、於算用場相談可致指圖事。

右所被仰出相違有間敷者也。

丑五月十五日　御印

今枝民部
奥村因幡
奥村河内
前田對馬

山本清三郎殿
園田左七殿
松原八郎左衛門殿
河北彌左衛門殿

覺

一、下免之在所相談次第、少宛に而茂上免可申付事。

一、去年納所滯、又當暮茂手づかへ可申と存、高免無紛在所者、見圖次第免切可申付事。

一、慥に難知在所者、先其分に而當暮御收納申付、其上に而免相差引可仕事。

丑八月廿日　御印

山本清三郎殿
園田左七殿
松原八郎左衛門殿
河北彌左衛門殿

二　改作奉行より相窺被仰渡之事

覺

一、毎年正・二月村々百姓持高に應、人馬・野道具致所持耕作慥に可仕儀、十村組切に吟味仕、手づかへいたす儀候者申斷候樣申觸候。

右之通申觸、百姓により何とぞ由緒御座候而、手前おとろへ耕作難仕旨申斷候得ば、委細承屆、尤に存候儀は御算用場に相談仕、其者に應米銀貸渡、耕作慥に仕候樣に申付候。又品により其百姓之任斷米銀貸渡し、惣百姓心立惡敷可罷成と存候儀は、其者之斷尤ながらも承引不仕、以後何とぞ餘之儀によそへ介抱仕候得共、事多儀御座候得ば不行屆儀茂御座候。

一、毎年八・九月日水風損に而不作之所有之候者、申斷候樣に申觸候。

右之通申觸、日水風損之村御座候而申斷候へば、御扶持人并十村共召連罷越、見立之上御算用場相談、免切用捨仕候。川崩之村は、檢地御奉行引高相極候。勿論村高應、少々日水風損之所免切用捨仕候はゞ、其外之村々見立乞、百姓心立惡敷可成と存候處、見立不仕候。

一、無由緒手前仕損耕作難仕旨申斷候歟、暮に到年貢未進仕もの、其の村追出、別百姓入替申御定御座候。

右御定故、耕作油斷仕年貢致難澁候得者、永代之高に離申儀を迷惑に奉存、改作に被仰付候以後、諸百姓耕作第一に仕、費を不致、御年貢無滯年々納所仕候故、近年者追出百姓無御座候。又私共心得に茂、大形之儀に而は百姓追出、永代之高にはなれ候儀は仕間敷と存候に付、自然日水風損を茂不仕、由緒なく手前おとろへ年貢未進仕に付、免相用捨も難致もの御座候得ば、當分下に而のがれざる者か、同村之百姓に預け、其身は致奉公給銀を取、未進相濟以後、勝手次第に預置候高取返、百姓に罷成候樣に仕成候。然共其心得、十村又は百姓中に且而爲知不申候。今以耕作麁抹仕候はゞ追出可申旨、度々爲申聞候。

一、御郡改作に不被仰付以前は、村々下免に御座候得共、かり物・延買など末之無考仕に付、暮に至右兩樣を致返濟候得ば、畢竟年貢米不足に付、其百姓を御代官又は相給人中に呼寄、糺明吟味仕候得共、左樣之百姓は過半未進御座候に付、走り申もの多御座候。

右之通に御座候に付、たとへば一ケ村に拾人御座候百姓之內、壹人に而茂走申候得ば、其村之免切致用捨候に付、殘九人之百姓勝手に罷成候故、手前よき百姓は、村之內よわき百姓に高利を以ひたと貸物抔仕、おとろへ申樣に仕成申候。又給人茂年貢未進仕百姓走申候得ば、其高殘